

# 令和2年度（2020年度） 評価表(全体評価) 学校関係者評価用

学校ビジョン	次世代リーダーの育成	本年度の重点目標	
○『学力の伸長』	・難関大学、医師薬系大学の合格	・体系的カリキュラム	
○『主体的行動力の育成』	・探究学習の推進	・プレゼンテーション力向上	
○『協調性を高める』	・異文化、多様性の理解	・いじめのない学校	
評価項目	具体的目標	目標達成のために本校が取り組んだ方策と成果	学校関係者評価と次年度への課題
倫理観の育成と規範意識の向上	挨拶を通して他者に対する関心と敬意を抱かせる。	「先ず隴より始めよ」という考えのもと、生徒の道徳心を育てる第一歩として教員が生徒の模範となる「さわやかな挨拶」を実施した。少しずつ生徒の態度が向上しつつある	先ず教員が率先して行うという姿勢は良いと思う。今後も継続してほしい。
	スマホやインターネットを正しく使いこなせる生徒を育てる。	中1・中2を対象にスマホ教室を実施した。生徒と保護者を交えたルールづくりは進まなかった。スマホの不適切使用・トラブルが数件発生した。	インターネットを使いこなせるスキルを向上させると同時に、社会の基準（ルール）を認識させる指導を、学校でナビゲーションして倫理観・道徳心に繋げてほしい。
校内の安全管理・健康管理に努める	生徒・教職員全員が校内美化に努める。	年度当初に清掃マニュアルを作成し、各場所に掲示した。マニュアルに沿った清掃はできるようになった。	今年度学校内で行われた新型コロナウイルス感染症対策は概ね大きな問題なくできていたのではないかと。収束の見通しが立たないなかで、引き続いで感染予防対策は継続して行ってほしい。
	定期的に安全点検を実施し、施設・設備等の不具合が原因となる事故を起こさない。	計画通り安全点検を実施した。修繕については少しずつであるが進んでいる。	
	新型コロナウイルス感染症の対応を速やかに、適切に行う。	「3密の回避」・「アルコール消毒の習慣」・「こまめな換気」に努めるように全職員が心掛けた。学校行事における「3密の回避」は概ね実行できたが、教室内のアルコール消毒や換気の徹底が不十分であった。	感染は誰にでも起こりうることで、感染したひとが非難される対象ではないという認識を全ての生徒・職員が持つように指導を続けてほしい。
	防災・防犯意識を高める	1学期は火災を想定した避難訓練を実施した。2学期は米子陸上自衛隊から講師を招き、モニターを通しての防災講演会を実施した。防犯訓練は実施できなかった。	来年度は、可能であれば防犯訓練を実施してもらいたい。
基礎学力の定着と、国際教育・探究学習の推進	家庭学習を定着させる（1週間の家庭学習時間の数値目標を設定） *中1・中2＝15時間、中3・高1＝22時間、高2・高3＝30時間	中学生の達成度が比較的に高かったのに対して、高校生の達成度が低かったのは残念である。スタディサプリやフォーサイト（生活ノート）の活用や、小テストの継続などを通して達成度のアップを図っていききたい。	新学習指導要領への本校の対応について、生徒・保護者に対してしっかり伝えてほしい。一度に全てを伝えることは無理かもしれないが、小出しでもよいので、逐次情報を伝えるようにしてほしい。
	新学習指導要領（中学は令和3年、高校は令和4年）に対応した教育課程の準備を推進する。	中学校の令和3年度教育課程は1学期に決定することができた。令和4年度からの高等学校教育課程については準備を進めているが、教育課程変更に伴う大学入学共通テストの出題教科・科目の変更に関して、より一層の情報収集に努めていかなければならない。	新学習指導要領や共通テストに対して、教員はしっかりした指導力を身につけてほしい。
	探究学習を通して、①問題発見・問題解決のための技能修得力、②事実の記述や主張を多面的、批判的に検討できる力、③論理性、④対話の有効性、⑤自身の経験を振り返り自覚できるといった力を身に付けさせる。	新型コロナウイルス感染症の影響で、学年行事の中止など教育活動が減少したが、各学年が可能な範囲で探究学習を進めることができた。各学年団の教員からは、「プレゼンテーション後の自己・他己評価を通して、自分の考えを表現するスキルを高めることができた（中2）」、「個人探究のテーマ設定を行う中で、将来の進路決定について深く考え、具体化することができた（中3）」、「自己の進路に結びついたテーマについて調査し、発表することで、将来の職業や進学したい大学・学部を決定している生徒が増えてきた（高1）」という評価があった。	コロナ禍のために、今年度は企業訪問などのフィールドワークや、学習成果発表会ができなかったのは残念である。しかし、可能な範囲で探究学習を継続させたことは評価したい。来年度コロナ禍が収束すれば、フィールドワークなどを、昨年度同様に積極的に実施してほしい。
生徒の適正に応じた大学進学の実現と保障	希望する進路をかなえさせるための適切な進路指導を行う。	面接週間を設けての個人面談や、校長面談、進路面接、推薦入試相談等を実施した。高3進路検討会、進路指導委員会、高1・2模試検討会等を実施し、個々の生徒の進路目標や学習達成目標を教員間で共通認識することができた。	難関大学へ挑戦する生徒数をもっとふやす努力・工夫をしてほしい。
	要望に見合った進路情報の提供と、キャリア教育の充実と、進学意識の高揚をはかる。	コロナ禍のために、大学入試センター説明会や、地元大学の進学説明会、予備校・模試会社の分析会などが相次いで、中止になったりWEB開催となったが、できる限り情報収集に努め、それを適宜生徒に提供することができた。予定していた進路講演会の開催は中止した。	これまで本校は医歯薬系の大学進学者が多かったが、今年度は理工系の進学者も増加している。今後は、難関大学合格者をさらに増やすための指導やカリキュラムについて、生徒・保護者がはっきり分かるようなビジョンを立ててほしい。また、本校はこれまで英語教育の充実をアピールしてきたが、同様にその指導方針やそのための方策を具体的に明示してほしい。
	大学進学実績の向上させる。	HPの大学合格実績を参照	
行事・生徒会活動・部活動の充実と活性化	各々のクラブが、今年度の目標を達成できるよう活動する。	コロナ禍のために、多くの大会・競技会が中止になった。また、日常の部活動にも制限が加わった。そのような状況の中で、フィギアスケート競技において、中2・高3の生徒が全国大会に出場し、優れた結果を残した。	コロナ禍のなかでも、生徒会は主体的に活動してきたようである。生徒が自発的に活動するようになってきていることに対しては、大いに評価したい。
	生徒がより主体的に考え、活動する場面を増やす。	従来の球技大会を星魁祭と命名し、生徒主体で運営を行った。新たな種目を取り入れ、盛り上がった大会となった。放送部が中心となって、競技の中継放送を行うなどの工夫もみられた。	体育祭や星魁祭に際して、保護者の方々が学校・生徒のために協力していただいたことについて深く感謝したい。
心の教育の推進	いじめ防止に対する知識と意識を身に付ける。 (いじめ防止教育の推進・充実)	いじめに関する講演会は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。生徒は、鳥取県のおいじめ等に関する標語を作成した。	「いじめ」とは人権侵害、犯罪行為であり、子どもだからといって決して許されることでないことを徹底して指導してほしい。
	P T A人権教育部と連携し、人権教育に関する情報提供を適切に行い、日々の指導に活かす。	コロナ禍で、殆どの研修会が中止になったが、一部はリモートで実施され、人権教育部の教員が参加した。PTA主催の人権講演会は中止したが、「PTA人権だより」は年2回予定通りに発行することができた。北斗人権月間を設け、啓発に努めた。	
	特別支援教育の充実（個別の指導計画に準じて、基本的な生活習慣の確立や基礎学力の定着をはかる）	個別の指導計画については、個々人に合わせたスモールステップを意識した目標設定を設けた。その多くが少しずつでも目標に近づいて行き、ステップアップすることができた。	「いじめ＝人権侵害」ということであるならば、「人権とは何か?」ということ、生徒だけでなく、保護者に対してももっと啓発して欲しい。それはインターネットやSNSにおける人権問題も含めて。